

名前：マルセイラ・フェニ・イナタ(日研生)

試練から得たもの

2020年は変わった年であり、私にとっては試練の年だと考えられます。新型コロナウイルスの影響で、大勢の人々が死んでしまい、世界中の国々でも多く問題が発生しました。恐怖、パニック、混乱などをあちこちで感じています。しかし、「本当にそれしかないのか」と何度も自分に疑問しました。そこで、体験したことを思い出しました。

私の学科では毎年日本の昔話の演劇があります。今年はちょうど私の学年、2017年生の番です。一年生の時からずっと先輩たちの公演を見て、「私たちもその舞台で最高のパフォーマンスを作ろう!」とみんなで思っていました。2019年に3年生になって、やっとそのチャンスが来ました。物語を選んで、台本を書いて、道具を作って、練習も一生懸命頑張りました。しかし、1年近く準備をしていて、やはり疲れが出てしまいました。どんどんやる気がなくなって、練習に行くのも面倒になったので、さぼって、「今日ではなくても、まだ明日があるだろう」と、毎日が当たり前のことだと思っていました。いよいよ後1週間で公演の本番だったのに、急に政府からの外出自粛命令が降りて、もう大学に行けなくなって、公演もいつまでかわからない延期になってしまいました。そして、私は日本に行くことになったので、もう役を外れる選択しかありません。この公演は卒業前の皆との最後のイベントなので、最高の思い出になるはずでしたが、今はもうできません。とても寂しくて、悔しいけれど、新たな勉強になったことがあります。大切な人たちとの時間を大事にすること、毎日精一杯生きることです。コロナのおかげで、「あ、そうか。こんな大事なことを忘れちゃうなんて最悪だ」と思えました。

長い外出自粛をして、大事なものに気づけました。確かに、これは私たちにとっては絶望的な時期かもしれませんが、そればかりではないと思います。皆さんはどうですか?コロナのおかげで、大事なものを得られましたか?些細な事かもしれませんが、「諦めないで」、「もっと毎日を大事にする」、「リセットラインが得られた」ということにしましょう。希望さえあれば、きっと道があるはずです。